



通勤途中の景色や、校舎周りの広葉樹が少しずつ紅葉を始めていますが、校舎の裏山が様々な彩りに覆われるのはまだまだ先の様です。しかし、日の暮れるのは確実に早くなり、夕方には冷たさや寒さを感じる季節になってきました。

11月は旧暦で霜が降りる月、霜月と呼ばれています。また、11月7日（金）は立冬となり、冬がすぐそばまで来ていることを感じさせられます。保護者や地域の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。

素晴らしい、文化祭でした

先週の22日（水）には、文化祭が開催されました。雨の降る中、多くの保護者の皆さまにお越し頂き、本校の取り組みをご覧頂いたことを深く感謝申し上げます。

合唱の部では、どの学級も美しい歌声で、素敵な発表を聞かせてくれました。特に3年生の発表には、その努力を思い、目頭が熱くなりました。音楽科の先生方、担任の先生方、学年の先生方、そして生徒の頑張りに感謝します。

また、展示の部では、特別支援学級、文化部、委員会のそれぞれ工夫のある展示を拝見しました。午後からのギターマンドリン部、吹奏楽部の発表は、これまでの活動の成果が披露され、大きな感動を与えてくれました。素晴らしい演奏でした。

後期が始まって約2週間が経過しますが、生徒たちは目的意識を持ち、安全で安心な学校生活を送っています。

これからも「矢野中スタンダード」を継続したいと思えます。



秋の夜長は読書を楽しもう

さて、秋も深まり長い夜を持て余すようになりました。昔から「秋の夜長は読書しよう」ということがいわれています。暑い夏を過ぎて、気候的にも時間的にも読書にはうってつけの環境となっているためだと思います。

「声に出して読みたい日本語」というベストセラーを書いた齋藤孝さんという大学の先生がいます。その齋藤先生は『読書力』という本に「読書は、自分の世界観や価値観を形成し、自分自身の世界を作っていく、つまり、自己形成にとって強力な道である」と書いておられます。また、読書をするコミュニケーション能力が格段にアップするとも言っておられます。読書によって自己を確立する力とともに、他人との関係を築くことの力が養われると言うのです。この二つの力は、変化の激しいこれからの社会を生きていく上で、もっとも必要とされる重要な力となります。

矢野中学校の素晴らしさを、見せることができました

10月15日（水）に、第4回広島県中学校教育研究会 人権教育研究大会「広島市大会」を本校で開催しました。「社会」「道徳」「数学」「英語」の授業を公開し、協議会を持ちました。その後の全体会では、本校の「研究報告」を行い、200名を超えるたくさんの参加者から、研究大会の成功を評価して頂きました。大会後、各方面から電話を頂き、素晴らしい生徒、授業、大会であったと評価して頂きました。